

令和七年度 美夫君志会 全国大会 御案内

本年度の全国大会を左記のように実施いたします。今年は各分野の優れた先生方による「招待研究」と、お二人の一般会員と次代を担う大学院生、若手の先生による「研究発表会」になります。会員の皆様には、どうか奮ってご参加ください。

一、招待研究発表会

七月五日(土) 午後一時三十分～午後五時二十分

中京大学・名古屋校舎【センタービル(0号館)六階 〇六〇三教室】

開会の辞・学会挨拶

挨拶

越中の〈発見〉

— 大伴家持の一時帰京をめぐる —

日本の古代交通と道路

『播磨国風土記』讃容郡弥加都岐原伝説「清酒」考

— 古風土記の注釈を考える —

美夫君志会会長 菊川 恵三
中京大学学長 梅村 清英
岡山大学 松田 聡
文庫在野文化財調査 近江 俊秀
皇學館大学 橋本 雅之

二、懇 親 会

七月五日(土) 午後五時三十分～午後七時三十分

中京大学・センタービル二階 プレジール

会費：七〇〇〇円前納

三、研究発表会

七月六日(日) 午前九時～午後四時三十分

中京大学・名古屋校舎【センタービル(0号館)六階 〇六〇三教室】

【午前の部】

「之」を「ゆく」と訓むべき九首について

卷二相聞の贈答歌群としての「弓削皇子と額田王の贈答歌」

山上憶良「日本挽歌」の前置漢詩文に関する考察

丹生王作歌の「石田王挽歌」

— 長歌冒頭部について —

上野 正彦
神谷 真由美
関西大学大学院生 瀬川 史子
奈良大学大学院生 角 正 鴻

【午後の部】

有間皇子自傷歌を考える

— 「ま幸くあらば」を通して —

大伴卿謙從等の「悲傷羈旅」歌考

「属物発思歌」考

生と死との間

— 「天智挽歌群」前半四首の構成 —

閉会の辞

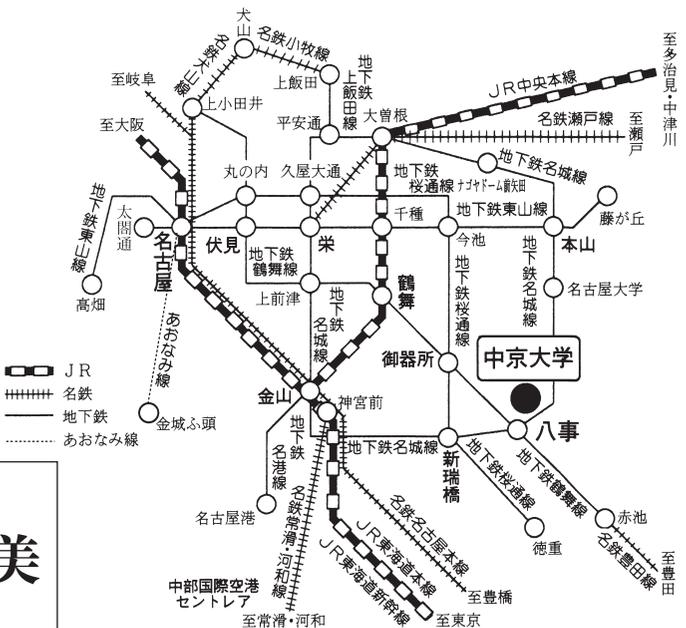
美夫君志会常任理事 井上 さやか

※発表資料を『資料集』として冊子に致します。当日受付にて、お求めの上「定価千円」をご利用下さい。

※出張懇請書入用の方は、百十円切手同封の上、美夫君志会宛に。

※中京大学(会場)の所在

(地下鉄「八事」⑤番出口より)



JR利用 (地下鉄乗換)

・名古屋 (東海道本線岡崎・豊橋行) 4分 → 金山
中央本線多治見・中津川行) 6分 → 鶴舞

地下鉄利用 (飛行機で来る方は中部国際空港から名鉄金山へ)

金山 (名城線左回り) 16分 → 八事
鶴舞 (鶴舞線赤池行・名鉄豊田行) 10分 → 八事
・名古屋 (東山線藤が丘行) 2分 → 伏見 (鶴舞線赤池行・名鉄豊田行) 15分 → 八事
・名古屋 (東山線藤が丘行) 4分 → 栄 (名城線左回り) 23分 → 八事
・名古屋 (東山線藤が丘行) 14分 → 本山 (名城線右回り) 5分 → 八事
・名古屋 (桜通線徳重行) 14分 → 御器所 (鶴舞線赤池行・名鉄豊田行) 6分 → 八事
・名古屋 (桜通線徳重行) 20分 → 新瑞橋 (名城線左回り) 6分 → 八事

美夫君志会

E-mail: mifukushi@ml.chukyo-u.ac.jp